

目 次

まえがき	2
教育実習の心得	3
授業観察記録について	5
参加記録について	6
授業実習記録について	7
実習校の概況	11
実習学級の概況	12
教育実習予定表	13
時間表	17
指導講話等の記録	19
教育実習日誌・参加記録	25
授業観察記録	57
授業実習記録	89
自由記録	105
教育実習の感想と反省	111
指導教諭の概評	114

ま え が き

教育実習における記録は、観察・参加・実習のいずれにおいてもきわめて重要な意義をもつものである。もちろん、記録そのものよりは観察それ自体、参加・実習それ自体が十分な成功をおさめることが、観察者や実習者の知識・技能を広め、理解・体験を深めるうえで大切であることは言うまでもない。しかし記録が、単に観察・実習の結果であるといいきることはできない。すなわち、観察や実習において、その目的、内容、方法等について記録をとらない場合よりは、記録をとる場合の方が一般に一層真剣な心構え、旺盛な研究心、細密な観察眼、深い考察等を要求する。このように、記録はたんに結果的産物であるばかりでなく、観察及び実習の態度や方法に逆影響を及ぼす。すなわち、観察・参加・実習目的の達成が一層効果的となるのである。

次に記録をとることにもう一つの重要な意義がある。それは、観察・実習結果の利用が記録によって容易になることである。観察・参加・実習記録の検討と反省は次の観察・参加・実習の改善につながる。したがって、記録はたんに書き並べるという態度でなされるべきでなく、その意義を十分に心得た上で、周到な用意のもとに書かれることが必要である。さもないと、かえって観察や実習の本体を失い、記録のための記録に堕しかねない。その意味からも、記録をとる前には「教育実習の手引」を熟読していただきたい。

教育実習の心得

実習校における実習生は、生徒に対しては、教師の資格をもって遇されているが、実習指導教諭に対しては学生であり、指導される者である。実習生は、学生であるとともに教師であるという自分の立場をよく認識していなくてはならない。したがって、進んで指導を受けようとする積極的かつ謙虚な心がまえを持って実習に臨むことが大切である。さらに生徒に対しては、教師である責任とともに誠意をもって接することが求められる。これまでの学生とは異なった実習生という身分への変化に伴って、それにふさわしい心がまえを持つことが必要である。

1 出勤と退出について

- (1) 実習生は、所定の時刻までに出勤し、出勤簿に捺印した後、勤務につくこと。
- (2) 実習生の出勤は、学生としての出席と異なり、公的性格を持っている。したがって病気などのやむを得ない事情で欠勤する場合は、必ず事前にそのことを指導教諭を経て、学校長に届出ること。
- (3) 遅刻・早退なども欠勤の場合に準じて手続きをとること。
- (4) 実習生は、常にその出所進退を明らかにしておくこと。すなわち登校・下校の時刻、校内での所在を明確にしておくこと。
- (5) 実習生の勤務時間は、指導教諭のそれに準ずること。
- (6) 通勤は原則として徒歩、自転車または公共交通機関によること。

2 勤務について

- (1) 実習生は、実習校の規則に従い、校長および指導教諭の指導監督のもとに教育実習を行うこと。
- (2) 実習生は謙虚にかつ誠意をもって、すべてを学びとろうという積極的な態度をもつこと。
- (3) 観察、参加などは積極的、計画的に行うこと。
- (4) 実習日誌は毎日記録し、所定の期日に必ず提出すること。

3 授業実習について

- (1) 実習授業を行う際は、前日までに指導案を作成して、指導教諭に提出し、指導を受けること。
- (2) 実習授業後は、進んで指導教諭の批評を請うこと。
- (3) 担当する授業を変更しようとする際は、事前に指導教諭の承認を受けること。
- (4) 教具などの取扱いには注意し、使用後は必ず整理しておくこと。
- (5) 実習時間外も担当学級の参観や、指導教諭の手伝いをする事。
- (6) 他の学級の授業を参観しようとする際は、必ず指導教諭の承認を得ること。

4 遵守すべき事項

- (1) 実習生は、生徒に対して懲戒を加えてはならない。その必要があるときは、指導教諭に連絡すること。

- (2) 実習生は，特定の生徒と特別のつながりを持ってはならない。生徒との電話，メールのやりとり等は，厳に慎むこと。
- (3) 実習生は，許可なくして自分の宿所や校外に生徒を連れ出してはならない。
- (4) 実習生は許可なくして，生徒の家庭を訪問してはならない。
- (5) 実習生は，実習中に知り得た秘密を学校外で決して漏らしてはならない。実習終了後も同様とする。（守秘義務）
- (6) 教師としての品位を失うような服装，行動，言葉づかい，態度などはつつしむこと。
- (7) 携帯電話などの電源は切るなどしておくこと。
- (8) 実習に必要な教科書，消耗品などは，できるだけ自分で用意すること。

授業観察記録について

- 1 授業の参観は1時間を通して見るべきであり，学習活動の妨げにならないように心がけることが大切である。
- 2 参観しっぱなしにせず，同時ならびに直後に記録する。
- 3 授業実施者の身になって参観することが大切で，自分が同様な環境におかれたとき，参観者はこのようにあって欲しいと思うことを守るのがよい。
- 4 自分ならば，あの点はこう取り扱うというように，自分の身にひきくらべて，真剣に参観し，また，いかにすれば自分の指導を改善していくことができるかという心構えで見ることでもある。
- 5 備品や展示物，その他視聴覚教具の効果的な使用法を学びとるよう心がけるべきである。
- 6 授業参観のあとで，授業を見せてもらった指導教諭に質疑応答の機会が得られるときは，進んでその機会をとらえ，教えを請うことも大切である。
- 7 参観の場合，教室出入りの際，教室の出入口で頭を下げて会釈をすること及び授業が終わったあと教授者に「ありがとうございました」と簡単な挨拶をすることは参観者としての自然な気持であり，また，礼儀でもある。
- 8 参観場所は，教師，教師の板書，生徒の様子ของすべてが参観可能な教室の両脇前が望ましい。ただし状況によっては教室の後部からの参観しかできない場合も多い。
- 9 参観に入る前に，本時の指導目標について，教科書，さらに用意してあれば指導案を見て，よく理解しておくこと。
- 10 授業観察者は，次のような点のすべて，あるいはいくつかに留意しながら授業を観察し，記録しなければならない。
 - (1) 目標と教材・教具の関係
 - (2) 目標と教授方法(教材提示法，動機づけの方法等)の関係
 - (3) 教師における教材理解度とその展開
 - (4) 教師の教授技術
 - (5) 教師の教授意欲
 - (6) 生徒の学習態度
 - (7) 生徒の既習レベルや能力と教材，教授方法の関係
 - (8) 学級集団の特徴
 - (9) 予想される教授効果(教材の習得・理解等)

参加記録について

参加記録は観察記録と違って、参加と記録を同時に行うことはむずかしい。しかし、できるだけ早い時期に記録をし、反省することが大切である。また授業実習と違って、教育実習生が主役となって教育活動を行うものではないから、あらかじめ活動の進行について自分で綿密な予定をたてるということもできないので、直後の記録が一層大切な意味を持つ。

授業実習記録について

指導計画についての基本的考え方

実習授業に用いるカリキュラムは原則として担任の指導教諭によって示される。しかも実習生の実習期間が比較的短期の場合は、実習生はその単元の展開計画のある一部分を担当することになる。したがって、たいていの場合は、授業が断片的、孤立的になりやすい。そこで、ここでは主として1時間の授業を中心とした指導計画の立案について一般的な解説をしておくこととする。これは、また、あらゆる学習指導計画の基礎でもある。

担任の指導教諭によって実際に提示されるものは、使用中の教科書、あるいはその学校で作成したカリキュラムまたは資料単元である。実習生は、これらの全課程に対して一応の認識と理解とを持つよう努力しなければならない。できれば全学年にわたるその科目全領域について認識を持つことが望ましく、少なくともその学年の全コースを知ることが要求されるであろう。たとえ1時間の授業を行うにしても、その単元の全体を見通し研究しておくことだけは最少限度の必要であって、計画立案の基礎として必ず行わなければならない。しかもこれは、実習生がその実習授業を行うに際してしばしば看過しがちな点で、実習生は概してただその割り当てられた個所だけを見て、それ以外に視野をひろげて全体の見通しの上にその計画を立案するということを怠りがちである。したがって、実習生から実習生へと引きつがれた授業は断片的、孤立的になり全体の統一が失われることが多い。被害者の生徒には、まことに迷惑なことである。そうでなくてさえ教育実習のために生徒の学習態度がくずれたり、クラスに混乱を生じたりすることはときおり見られるところである。そこで授業実習にあたっては全体的な見通しと自己の前後を担当する実習生との十分密接な連絡がぜひ必要となってくる。このことは指導教諭においても相当留意するところであるが、実習生としても十分心がけなければならないことで、このため少なくとも自己の担当する前後の授業は必ず参観すべきである。教育の連絡性、発展性や生徒の人格性を思うとき、このことはむしろ授業担当者の義務であると言っても過言ではない。さらに前時担当実習生の反省を聞くとか、あるいはその授業の批評会等が行われるときなど必ず出席するとかして、地についた立案の基礎を得なければならない。これらのことより、単に授業の連絡統一をはかることができるばかりでなく、学級や個々の生徒の個性や能力等を実際に知ることができるのである。しかも、それは単に自分だけの観察や考えでなく、他の人々の観察、意見を知る機会でもある。

今日の教育における一般的な学習理論については、教育学、心理学、あるいは教科教育法を通してすでに研究してきたところであるが、これを授業の実際においてどう生かしていくかということは、具体的にはなかなか困難なことである。生徒の学習活動を自主的にまた自発的にすすめていくことの必要はいまさら言うまでもないが、教育実践の場においていかなる指導技術が適切であるか、またその指導計画においていかなる立案形式が妥当であるかは、これを軽々しく論ずることはできない。現実の生徒を対象として、具体的なカリキュラムを取り扱う指導計画なり指導方法というものは、それぞれの場合により異なるものであるし、また、同じ生徒、同じ教材を取り扱うにしても、それを指導する教師の

個性や能力等によって異なってくるものである。教育方法の原理中の原理は、教師その人にあるといわれる意味もここにある。しかし唯一絶対の方法なり形式なりは見いだされないうにても、望ましい学習指導計画の立て方というものを考えることは不可能ではないし、また、ぜひ必要なことである。

このような意味において、先に述べたような実習生による授業の特質を考慮しながら後に学習指導案の1つの形式を示すことにする。この指導案の形式は各種の具体案を勘案して作成したもので、はじめて教壇に立つ者のために比較的詳細な立案形式となっている。また、実習協力校によっては、その学校独自の学習指導案の形式を定めているところも多い。しかし、一般的に言えば、ここで示す学習指導案の形式も、協力校独自のそれも、あくまで教師の事前計画であり指導計画であって、実際の授業はむしろ立案どおり行かないこともしばしばあることを予期しておかなければならない。この意味において、学習指導案は再計画や補助計画を必要とすることを忘れてはならない。しかしこの事前の計画なくしては、正しく適切な学習指導ないし学習活動は行われ得ない。したがって、最初の授業には必ず周到な細案を立てるがよい。そうすることにより、実習生は落ち着いて教室にのぞむことができるし、また授業を着実に行うことができるのである。

学習指導案（細案）の書き方

〇〇科 学習指導案

指導者 教育実習生 〇〇〇〇
(実習指導教諭 〇〇〇〇先生)

- 1 日 時 平成〇年〇月〇日(〇曜日) 第〇時限
- 2 学年・学級 第〇学年〇組(男子〇名, 女子〇名 計〇名)
- 3 単元名

教科・領域によっては「題材名」「主題名」となる。

- 4 単元について

この項は「単元設定の理由」「題材について」「題材設定の理由」「主題について」「主題設定の理由」とする場合もある。

「単元について」は、教材観、生徒観、指導観の3点について、指導者としての基本的な見解や考え、指導方針等を記述する。

教材観は、学習指導要領(解説)・教科書・参考文献等を拠り所として、指導のねらい・指導の内容・取り上げた教材の意義・指導内容の系統性等を明確に記述する。

生徒観は、指導内容に関する興味・関心、定着状況、学習の雰囲気、学習活動の経験や志向等、生徒の実態を明確に記述する。拠り所とできるものは、観察・意識調査・事前テスト・生徒や他の教師からの聞き取り等がある。

指導観は、前述の教材観・生徒観を拠り所として、めざす生徒像・育てたい力・指導の工夫点(学習活動、場面設定、学習形態、発問、板書、使用機器等)について、記述する。

- 5 単元(題材・主題)の目標

生徒の変容・知識技能の修得、能力の育成等、単元指導の目標を具体的に記述する。

- 6 単元の評価規準

学習指導要領にある各教科・領域における評価の観点にしたがい、学習活動と関わらせて、単元レベルの評価規準を、表にまとめる等して、簡潔に記述する。教科によって規準は違う。単元によっては、規準が少なくなる場合もある。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
その単元の学習への、関心・意欲・態度の高まりを見るための評価規準を書く。	論理的・分析的思考、総合的判断等を見るための評価規準を書く。	学習活動で身に付けるべき技能の、習熟・発揮を見るための評価規準を書く。	基礎的概念の相互関係・規則性・性質等の知識の習得や理解を見るための評価規準を書く。

7 指導と評価の計画（全○時間）

「学習活動」については、単元全体を通して学習がどのように展開するのか、また各時間の学習が全体のどのような位置づけなのかが分かるように、各時間で扱う学習内容を簡潔に書く。

「評価」については、各時間の学習活動において重点をおく評価の観点・規準・方法を書く。

次	時	学習活動	評価の観点・規準・方法
1	1	表題の記述でなく、学習の内容を記述する。	「単元の評価規準」を指導計画の中に具現化して位置づける。 1時間の授業で重点的に取り扱う評価項目を示す。
2	1 2 3		

3	1		
---	---	--	--

8 本時の目標

1 単位時間の授業で、生徒がどのような知識・技能等を修得するのか、どのような能力を身に付けるのか等、主としてねらう内容を具体的に書く。

9 本時の指導過程と評価

段階	学習内容・学習活動	教師の指導・支援	評価規準・評価方法
導入 展開 終結	教科や教材の特質および本時分の指導内容等を考えるとともに、どのような学習過程を設定したらよいか、また、どのような学習活動が効果的であるかを考慮して記述する。 学習活動を1, 2, 3・・・の項目に分けて、中心となる学習活動を明確に記述する。 本時の目標を意識し、目標に向けた流れを作るように記述する。	生徒の立場から考えて、考慮すべき事柄、資料の扱い等について具体的な手立てを記述する。 学習活動に対応させ、指導のポイントや主体的な学習活動を促進させるための配慮について記述する。	本時の学習内容・活動に対する評価規準や方法を具体的に記述する。 できるだけ具体的な評価活動を記述する。

10 板書計画

実習校の概況

所 在 地										
教職員数	教諭	人	養護教諭	人	事務職員	人	その他	人	合計	人
学 級 数 生 徒 数	1 年	学級	2 年	学級	3 年	学級	合計		学級	
	男	人	男	人	男	人	男		人	
	女	人	女	人	女	人	女		人	
	合計	人	合計	人	合計	人	合計		人	
学校の沿革										
学校の教育方針										
学校の教育環境（施設等）										
その他										

教育実習予定表（第1週）

月	日	曜日	
備 考			

教育実習予定表（第2週）

月	日	曜日	
備 考			

教育実習予定表（第3週）

月	日	曜日	
備 考			

教育実習予定表（第 週）

月	日	曜日	
備 考			

時 間 表

(年 組)

	月	火	水	木	金	

(年 組)

	月	火	水	木	金	

(年 組)

	月	火	水	木	金	

(年 組)

	月	火	水	木	金	

時 間 表

(年 組)

	月	火	水	木	金	

(年 組)

	月	火	水	木	金	

(年 組)

	月	火	水	木	金	

(年 組)

	月	火	水	木	金	

指導講話等の記録

年	月	日	曜	時	分	～	時	分

指導講話等の記録

年	月	日	曜	時	分	～	時	分

指導講話等の記録

年	月	日	曜	時	分	～	時	分

指導講話等の記録

年	月	日	曜	時	分	～	時	分

指導講話等の記録

年	月	日	曜	時	分	～	時	分

指導講話等の記録

年	月	日	曜	時	分	～	時	分

教育実習日誌

実習第	日目	月	日	曜	天候
登校時刻		時	分	下校時刻	
		時		時	
時 限	事 項 ・ 内 容				
始業前					
ホームルーム					
1 時限					
2 時限					
3 時限					
4 時限					
昼休憩					
5 時限					
6 時限					
7 時限					
ホームルーム					
放課後					
その他					
感想・反省					
指導教諭所見					

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

実習第	日目		月	日	曜	天候	
登校時刻		時	分	下校時刻		時	分
時 限	事 項 ・ 内 容						
感想・反省							
指導教諭所見							

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

実習第	日目		月	日	曜	天候
登校時刻		時	分	下校時刻		時 分
時 限	事 項 ・ 内 容					
感想・反省						
指導教諭所見						

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

[illegible]

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

実習第	日目		月	日	曜	天候	
登校時刻		時	分	下校時刻		時	分
時限	事項・内容						
感想・反省							
指導教諭所見							

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

[illegible]

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

[illegible]

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

[illegible]

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

実習第	日目	月	日	曜	天候		
登校時刻		時	分	下校時刻		時	分
時	限	事 項 ・ 内 容					
感想・反省							
指導教諭所見							

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

教育実習日誌

実習第	日目		月	日	曜	天候	
登校時刻		時	分	下校時刻		時	分
時限	事項・内容						
感想・反省							
指導教諭所見							

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

参 加 記 録

実習第	日目	月	日	曜	天候
参加対象，参加事項など				意見，感想，反省など	

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自 由 記 録

感 想 ・ 意 見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動					学習者の活動	

自由記錄

感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動					学習者の活動	

自由記錄

感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自由記録
感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自由記録

感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自 由 記 録

感 想 ・ 意 見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自 由 記 録

感 想・意 見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自由記録
感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自由記録

感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動					学習者の活動	

自由記録
感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自由記録
感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自 由 記 録

感 想 ・ 意 見

授業観察記録

観察日時	月 日 曜	時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)			
指導教諭			実 施 者	
教 材 名 単 元				
観 察 の 視 点				
観 察 事 項				
指導者の活動			学習者の活動	

自 由 記 録

感 想・意 見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自由記録

感想・意見

授業観察記録

観察日時	月 日 曜	時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)			
指導教諭			実 施 者	
教 材 名 単 元				
観 察 の 視 点				
観 察 事 項				
指導者の活動			学習者の活動	

自由記録
感想・意見

授業観察記録

観察日時	月	日	曜	時限	教科・科目	
対 象	年	組	(男	人	女	人 計 人)
指導教諭				実 施 者		
教 材 名 単 元						
観 察 の 視 点						
観 察 事 項						
指導者の活動				学習者の活動		

自 由 記 録

感 想 ・ 意 見

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

授業実習記録

実習日時	月 日 曜 時限	教科・科目	
対 象	年 組 (男 人 女 人 計 人)		
指導教諭		実 施 者	
教 材 名 単 元			
本時の指導目標			
自己評価の視点			
自己評価			
指導教諭の評価			

学習指導案・指導計画

(学習指導案・指導計画を整理して記述する。または別紙に作成したものを貼付する。)

自由記録

自由記録

自由記録

自由記録

自由記録

自由記録

教育実習の感想と反省

[illegible]

[illegible]

